

特集

新発田の農業を 俺たちにまかせろ!!

先般、若い農業後継者の方々と農業委員との意見交換がありました。

現在の農業情勢は、農家戸数の減少、高齢化や担い手不足、遊休農地の増加など課題が山積して、将来、農業生産にあたえる影響の「不安」がぬぐえません。

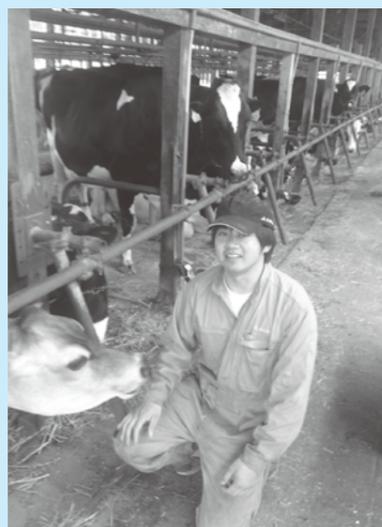
このような情勢下の中にあっても、しっかり足を地につけて、将来の農業設計を語ってくれた農業後継者が多くおられることを力強く感じました。その中から3名の若い農業後継者に、それぞれの「思い」を語ってもらいました!!

菅谷 中野 浩一

我が家は菅谷地区で、酪農十稲作を営んでいます。

私が就農したのは、平成13年4月なので、早いもので丸12年が経過したことになります。この間にも、畜産をめぐる情勢は大きく変化してきました。

日本がTPPに参加すれば、さらに厳しい環境にさらされるものと推測されます。このような逆風に立ち向かうため、稲作部門の生産調整部分を稲発酵粗飼料（WCS）の生産で飼料費の節約。また、良質堆肥による良質米の生産を行います。月岡地区の「わくわくファア



ム」内で自家産生乳を原料としたジェラートを販売、牛乳以外にも地元の旬の果物・野菜を原料とすることで、ジェラートとともに新発田産の農産物を市外・県外にアピールしていければと思います。

現在、私は新発田農業士会の会長を仰せつかっていますが、この会のメンバーをはじめ、若い後継者の力と知恵をあわせて未来の農業を創っていききたいです。

天王 阿部 直樹

我が家は、17haの水稲を中心に、機械作業受託やケイトウ、ヒマワリ、冬はチューリップなどの季節の切花を生産している専業農家です。

今年から、後発ではあります。省力・低コスト化の一環として水稲の点播直播を始めました。10数年前の直播のイメージしか知らない私にとって、資材・機材の進化した新たな稲作の形に触れて、目を剥く思いでした。これを移植栽培と併用することにより、省力化と作期分散効果によって、さらなる規模拡大を



目指したいと思っています。また、今秋より秋季作業を広く募集しています。

今後、担い手不足やTPP参加など、農業を取り巻く環境が変化し、深刻な課題に直面することもあると思いますが、その時代の変化に対応し、経営の発展に努めていきたいと思っています。その中で、地域から信頼され、担い手となれるように頑張っていきたいと思っています。

真中 高橋 拓也

我が家の経営の概況は、チューリップ球根4ha、チューリップ切花40万本、その他野菜類、切り花類があります。チューリップを中心として、周年的に農業を行っています。

私は農業大学卒業後、ユリ切花農家に一年間研修へ行き、ユリの勉強をし、現在就農10年目です。

就農後、自分の作目として、ユリ・カラー切花を始めました。数年間はなかなか良い花が作れず、管理の大切さ、知識の少なさを感じました。

色々な体験をする中で、ハウス内の作物の温度管理や水管理の基本が一番大事



だと思い実行した結果、徐々に良い花ができるようになりました。

失敗した時はとても悔しく辛いのですが、そのことが良い花ができた喜びを大きくしてくれます。成功も失敗も自分次第。それが農業の楽しさや魅力だと思えますので、これからも頑張っていきたいと思っています。